

株式会社プリオール

Pick Up!

平成25年度

事業計画名

製造(裁断)工程の自動化と管理システムの構築による生産性向上、及び新商品開発

概要

現在、サポーター類の製作時、裁断工程では手加工とプレス抜きを併用しており、寸法が変わる都度、型の製作が必要となりコスト・時間がかかる要因となっている。

型を使わない自動裁断方式の開発により、工程短縮とフレキシブルな生産を実現させる。同時に、管理書類の電子化を図り、全体の生産効率を高める。

これらを、既存製品及び本事業で開発する新商品の製造にも適用させる。

分類

＜対象類型＞ ものづくり技術

＜事業類型＞ 成長分野型

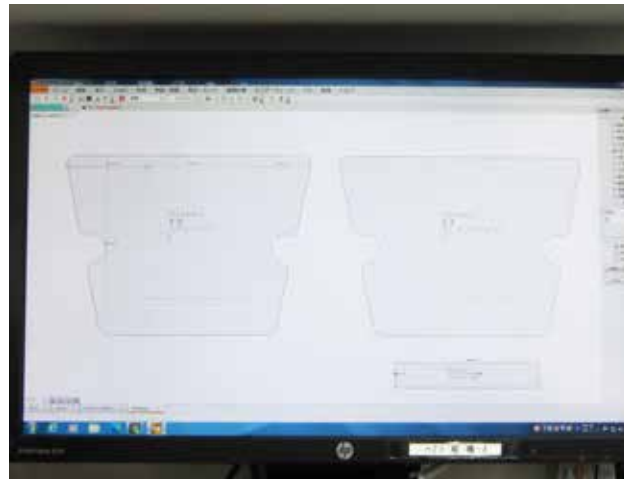
試作開発+設備投資

成果

自動延反機・裁断機及びアパレルコンピュータシステムの導入により、裁断工程の自動化が可能となり、作業人員削減、金型コスト不要、金型製作リードタイム不要等、効率化に繋がっており、さらに製品の品質安定化も図れた。

生産管理システムの導入により、データ管理が可能になり、進捗状況の把握だけでなく、社員の作業実績のリアルタイム把握も可能となった。

これらを、既存製品ばかりでなくOEM供給先の新規製品や、「メモリーベルトⅡ」等の自社製品の製造にも適用できている。



アパレルコンピュータシステム製図例



入力機能付きアパレル用マシン



自動検針機

自社開発福祉用品の製造からサービス提供まで
一貫して手がけ、高齢社会の多様なニーズに応える。

産学官連携を積極的に推進

高齢者人口の増加にともない、医療、介護、生活支援等の分野におけるサービスニーズが急速に拡大かつ多様化。福祉用具産業をはじめとするメディカル・ヘルスケア関連市場は大きく拡大すると予想されています。

プリオールは1970（昭和45）年、「衛生オムツ本舗」として個人創業。以来、一貫して介護・福祉用具の製造・販売に携わってきました。

現在、自社製品の主力は、医療用・スポーツ用サポーターおよびスプリングマットレス用全包型防水シート等の福祉用品。メディカルケア・ホームヘルスケア、療養ベッド・福祉用具などの分野で日本を代表する大手企業にOEMおよび自社ブランド製品として販売しています。さらに各種福祉用具のレンタル・販売、住宅改修のほか、介護保険事業（居宅介護支援所としてケアマネージャーによる介護サービス）も展開しています。

1986年に信州大学医学部泌尿器科医師と共同で尿失禁対策事業における商品開発を手がけたのをきっかけに、同社では産学官連携を積極的に推進。2005（平成17）年に信州大学情報工学科と転倒予防装置の開発に着手し、06年には体力判定装置における特許を共同出願しました。

裁断自動化と管理システムの構築

同社ではサポーター類の裁断工程においては従来、手加工と金型を使用したプレス抜きを併用。



縫製部門の作業風景（検査）

サイズが変わるたびに金型をつくる必要があり、コストと時間がかかる要因となっていました。

その課題を解決しようと、平成25年度補正もの

づくり補助金を活用し、裁断工程の自動化と管理システムの構築に着手。自動定寸カットシステムと自動裁断機、アパレルコンピュータシステムなどを導入し、金型を使うことなく、生地製の製図から裁断まで自動で行う体制を整えました。



自動裁断機



自動定寸カットシステム

あわせて、信州大学工学部情報工学科（現電子情報システム工学科）と共同で独自の生産管理システムを開発。手記入による帳票作業を廃し、作業者がタブレット入力したデータをもとに工程の進捗を把握できるシステムを構築しました。社員個々の作業実績もリアルタイムで把握できるため、データの蓄積・分析により生産効率の向上に役立てることが可能になりました。

これらの取り組みにより、作業の効率化とコストダウンを実現。さらにサポーターの新商品開発にともない特許を出願するなど、大きな成果が表れています。

同社では新商品の取引先への売り込みやネット通販を積極的に展開。これをきっかけに従来の事業に加え、自社ブランド製品の開発・販売に積極的に取り組んでいきたいと考えています。



株式会社プリオール

代表 代表取締役 西澤 茂治
設立 1985（昭和60）年10月
資本金 1,000万円
従業員数 38名
本社 千曲市上山田3813-148



事業内容 医療用及びスポーツ用サポーター並びに福祉用品の製造、居宅介護支援事業所、福祉用具貸与事業所

<http://prior.co.jp>